沿岸重要資源動態調査

Ⅰ 調査目的

本県太平洋沖に来游する沿岸資源のうち最も重要なスルメイカおよびサバの漁況を把握し，来游資源量，分布移動，生態について調査研究をおこない，特にスルメイカについては，漁海況予報事業とあわせて漁業経営の安定に資する。

Ⅱ 調査内容

(1) 調査期間　昭和４４年７月３日～１１月３０日

(2) 調査員　漁業課長　浅加信雄
調査課長　豊川毅
技師　富永武治
〃　沢田兼造
〃　赤羽光秋
〃　十三邦昭
〃　中田凱久
〃　真木序夫
〃　田村真通

(3) 調査海域　本県太平洋沖合

(4) 調査項目

① スルメイカ漁海況調査

② スルメイカ多項目測定

Ⅲ 調査結果

調査員１名が交代で八戸市に駐在し，当業船からのききとり調査および試験船の調査結果，魚市場陸揚げ調査ならびに魚体調査等をもとにして，漁況概要を作成し，日報として八戸漁業用海岸局から沖合各船に通報するとともに，市内に設けた掲示板に速報を掲載し地方紙にも掲載広報した。

(1) スルメイカ多項目測定結果

イ 外套長（平均値）

大まかにその推移を見ると，７月中は１８～２０㎝前後，８月～9月中旬には約２０～２２㎝，１０月下旬２３.５㎝，１１月～１２月上旬には約２４～２６㎝となり，７月中に出現したものは雌雄差はなく，時間的増加傾向もあまりなかった。雌雄差は８月以降時間とともに増大した。

ロ 外套長組成

６月下旬～７月中旬におけるモードは１５㎝から２０㎝に変化し，約５日に１㎝の割合で増加した。

ハ 平均体重

７月中は大体１００～１６０㌘で，８月～9月中旬には１６０～２２０㌘，１０月下旬２８０㌘，１１月上～中旬３１０～３２０㌘，１１月下旬３２０㌘となり増加と雌雄差は外套長と類似の傾向を示した。

ニ 生殖腺重量

雌雄とも，時間的に増加し夏イカでは♀１㌘以下，♂３㌘以下で，秋イカでは♀１～２㌘，♂５～８㌘位であるが，時間的にはばらつきがある。

ホ 性比

雌雄同数だったのは１回だけで，毎回雌雄何れかに偏りがあったが，全期間合計ではほぼ同数(

6月中の小イカは♂が多かった。）性比の偏りには一定の傾向はなかった。（性比の差20%以内が約7割を占めた。）

ヘ　てん卵腺重量

大まかに分けると，7～8月には18～27㎜，9月上旬29～37㎜，10月下旬～11月上旬37～42㎜，11月下旬49㎜で，時間的にかなりばらつきがあった。

ト　性比と外套長の関係について

7月中の平均外套長の増加は時間との相関がうすい。この期間雌雄の魚体差は余りない。しかし性比との相関がこの期間でみとめられた。7月中，♂の個体が多いときは，外套長は雌雄とも大きく，♀の個体が少ないとき，外套長は全体として小さい結果を示した。又，この期間より相関は低いが，秋イカについては，これと逆の関係が傾向的にみとめられた。

月　日	平均外套長	性　比（♀）	月　日	平均外套長	性　比（♀）
	㎜	%		㎜	%
7．6	184.1	50.0	10．22	233.9	58.1
7．14	197.2	58.0	11．2	245.0	46.5
7．17	191.9	44.0	11．3	247.5	53.3
7．21	197.2	68.8	11．4	246.8	60.0
7．24	187.7	54.2	11．6	250.9	36.3
7．27	178.5	44.8	11．14	250.2	55.5
7．31	206.5	64.0	11．27	255.2	46.6
r＝0.75478			r＝－0.49169		

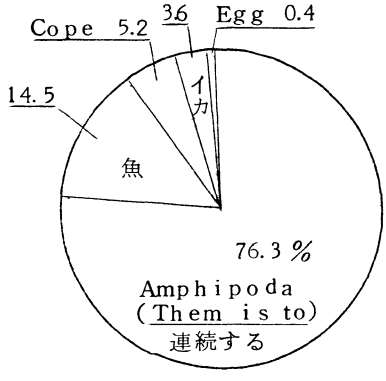
チ　胃内容物

近海イカの大多数の個体は，空胃の状態だが，胃中に餌がみられる個体でも，満腹と思われる程捕食していない。

夏イカの胃内にはAmphipodaが多くみられ，秋イカには魚類が多く，次いでThemistoの順になっていた。

太平洋近海イカの胃内容物中には，Themistoが優占的だが，同じイカが生息してると思われる津軽暖流域内でのプランクトン組成は1%位の割合であった。

第21図　餌料種別出現率　　月／日



7／15～9／11

Ⅳ 今後の課題及び問題点

本年も資料収集の手段として聞き取りの他標本船を選んだが，漁況速報の資料としては有効でなかった。

問題としては当業船の積極的な協力が得られないことであり，速報を充実したものにして漁民に還元させるためには漁民意識の向上と，これに対する説得の努力以外にはない。